

令和2年度 基本施策評価シート

作成日 令和2年5月28日

基本施策	D4 人と自然が共生する環境をつくります		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	自然と共生する社会の実現へ向け取り組んでいる。	
長崎市第4次総合計画(後期基本計画)基本施策掲載ページ		109 ~ 110	
基本施策主管課名	環境政策課	所属長名	山田 尚登
関係課名	水産農林政策課、農林振興課、土木建設課、北総合事務所地域整備課		

基本施策の評価

Bb 目標をほぼ達成しており、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる

判断理由

・基本施策の成果指標2つのうち、森林整備面積について100%以上。ホタル飛翔定点調査については、95%以上となる。

・個別施策の成果指標2つのうち、一つが100%以上、もう一つが93.5%の目標達成率となったことから「b」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

(1)市有林において、森林経営計画等に基づき、間伐や下刈、作業道開設等の森林施業を実施したことにより、土砂流出防止や水源かん養、空気の浄化などの公益的機能の充実が図られた。

(2)間伐材を利用した木製品等を学校図書館へ提供する取り組みを推進するなど、木製品等を公共施設などへ提供することで資源の有効利用や木材の良さや魅力を伝えることができた。

(3)相川休耕田、黒崎永田湿地自然公園、いこいの里及び体験の森等を活用し、親子環境教室、自然観察会、自然体験学習会並びに地域・団体との協働による里山清掃及び森林清掃等を実施したことにより、豊かな自然とのふれあいや自然保護意識の高揚が図られた。

(4)有害鳥獣による生活環境被害の相談は増加しているが、緩衝帯や侵入防止施設の整備を行った箇所においては、被害軽減が図られた。

(5)維持管理が行われない森林の増加による森林の公益的機能の低下や、希少種や外来種に対する市民の認知度の低さなどが課題として残っている。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
森林整備面積 (植林、枝打ち、間伐等) [累計]	2,093ha (26年度)	↑ 目標値	2,493	2,693	2,893	3,093	3,293
		実績値	2,505	2,773	3,022	3,260	
		達成率	100.5%	103.0%	104.5%	105.4%	
ホタル飛翔定点確認箇所数	80箇所 (26年度)	↑ 目標値	82	81	81	81	81
		実績値	80	78	78	79	
		達成率	97.6%	96.3%	96.3%	97.5%	

今後の取組方針

- (1) 年次的な希少動植物及び外来生物等の調査やモニタリング調査を引き続き行う。
- (2) 地域・団体等、多様な主体との協働による事業を展開することで、豊かな自然とのふれあいや自然保護意識の高揚を図る。
- (3) 自然環境の保全と再生を図るため、森林体験学習などの親子での自然観察会、自然体験型学習会などの環境教育及び環境イベント等による自然環境保全意識の啓発を図るとともに、自然環境に配慮した公共工事に取り組み、また、水源かん養や土砂流出防止等の維持のため、森林整備を行う。
- (4) 林業労働力の安定的確保の資するため、担い手への支援を継続して行う。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Bb」については、所管評価のとおり。
- P1「有害鳥獣による生活環境被害」について、被害が減少したとあるが、それは整備を実施したところであって、全体的な相談件数等は年々増加しているため、市民感覚とのズレが出ないように、表現の仕方を工夫すること。
- 個別施策D4-2「自然と触れあう機会の創出」について、他施策からの再掲になると思うが、今後の取組方針についてはあぐりの丘の全天候型施設の動きも記載すると、全体的なつながりが出てくるのではないかと。

令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-1 自然環境の保全を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	生物多様性の保全に取り組んでいる。	
個別施策主管課名	環境政策課	所属長名	山田 尚登

令和元年度の取組概要

①自然環境保全への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎市自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を実施した。 ・市有林において、森林経営計画等に基づき、間伐や下刈、作業道開設を行った。 ・長崎市産材など地域産材を積極的に活用するため、市有林の間伐材を活用し、フラワーポット、バンコ椅子等の加工品を製作し、資材と併せて小中学校等の公共施設等への提供や一般市民への販売を行った。 ・小中学生とその保護者を対象に、環境保全への意識や行動を高めてもらうために親子環境教室を4回開催した。 <p>【D4-2から再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二級河川大井手川の河川改修工事において、自然環境に配慮した河川整備を行った。 ・有害鳥獣の棲み分け対策として、市有林に住家が隣接している箇所において、有害鳥獣を寄せ付けない環境整備として、緩衝帯2.5haを整備した。
②生物多様性の周知・啓発・保全	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全のバロメーターのひとつとして、市域の主要な16箇所河川付近の住民から、約1ヶ月にわたり、ホタルの飛翔情報(毎週2回、計7回)を得て、市ホームページや本館、地域センターにおける掲示、地元紙における掲載等広く市民に情報発信を行った。また、全市一斉ホタル飛翔調査として、定点の81箇所(前述16箇所含む)で同様の調査を実施し、結果を「ながさきホタルマップ」としてとりまとめた。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2	
自然環境保全団体加入者数	642人 (26年度)	↑	目標値	862	972	1,082	1,192	1,300
		実績値	729	1,192	1,150	1,115		
		達成率	84.6%	122.6%	106.3%	93.5%		

※自然環境の保全を目的とする市民団体の加入者数(20団体)自然環境についての学習を行う団体 環境保全活動を行う団体

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①自然環境保全への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間伐等の森林施策の実施により、林内の適度な光の射し込みや通風が確保されたことで、造林木の育成や下層植生の生育が促進された。 ・間伐材を利用した木製品等を製作し、学校図書館など公共施設等へ提供する取り組みを推進することで資源の有効利用や木材の良さや魅力等を伝えることができた。 ・有害鳥獣との棲み分け対策として、侵入防止施設や緩衝帯2.5haを整備し、被害軽減が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水源かん養や土砂流防止等の森林の公益的機能の充実が図られた。 ・森林整備の際に産出される間伐材による木製品の利用普及を促進し、伐採される樹木の有効活用を図り、森林整備、森林保護に寄与する。 ・有害鳥獣からの被害を防止し、地域との共生を図る環境づくりに寄与した。

<p>・山、川、海のそれぞれの生き物を対象に親子環境教室を開催し291名の参加があった。【D4-2から再掲】</p> <p>・大井手川の河川整備では、植樹ブロックや魚巣ブロックの設置等、防災性向上に合わせて自然環境への配慮が図られた。</p>	<p>参加者は専門家による説明を交えながら自然観察や生物の同定を実施することで身近な範囲にも多様な自然や生物があることや、それらを守っていくことの重要性の認識につながった。</p> <p>・公共工事による環境負荷の低減を図り、河川の自然環境保全につながった。</p>
<p>②生物多様性の周知・啓発・保全</p> <p>・ホタルの飛翔情報及び全市一斉ホタルの飛翔調査の実施により、市民への速やかな情報提供を行うとともに、ホタルマップや各施策の基礎データとして活用を図ることができた。</p>	<p>・ホタルが出現する場所や状況を積極的に市民にPRすることにより身近な場所に残されている自然とともに、自然環境保全の意識を向上することにつながった。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①自然環境保全への取組み</p> <p>・維持管理が行われない森林が増加し、森林の公益的機能の低下や自然環境の維持・確保について懸念される。</p> <p>・大井手川の環境に配慮した計画により整備を実施しているが、並行する県道の整備や、下水道等の支障物件の移設に時間を要している【D4-2から再掲】</p>	<p>・林業従事者の高齢化や減少、木材価格の低迷、生産経費の高騰等による経営意欲の減退等による。</p> <p>・関係する事業全体の進捗・影響などによる。</p>
<p>②生物多様性の周知・啓発・保全</p> <p>・希少種や外来種に対する市民の関心や認知度が低く、それらの生物の良好、適切な生育環境の確保、対応が懸念される。(D1-1に再掲)</p>	<p>・希少種や外来生物に対する情報発信が十分でない。</p>

今後の取組方針

<p>①自然環境保全への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査について、効果的な場所の選択を行い引き続き実施する。 ・希少種の保護に向け、周辺市民や関係団体等と連携し、実態調査、生息・生育環境の保全を図る。 <p>森林の持つ多面的機能を発揮させるため、適切な管理が必要な森林の抽出や整備の優先度等を検討し、森林の整備促進を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間伐材加工所において製材加工した木製品等を公共施設等へ提供することで、木材の良さに触れてもらい、森林資源の有効利用や木材の良さや魅力等を伝えるなどの地域産材のPRに引き続き取り組む。 ・親子環境教室では、参加者の増加を図るため時期や内容についての検討を行い、魅力的かつ効果的なものとする。【D4-2から再掲】 ・防災上、緊急を要する箇所を優先的に整備する中でも、生態系や親水性に配慮した河川の整備を実施しており、関係機関との調整を図り事業の進捗に取り組む。【D4-2から再掲】 <p>②生物多様性の周知・啓発・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタルを含めた希少な動植物や外来種について、市民の関心を高めるよう積極的な広報・啓発に取り組む。【D1-1へ再掲】
--

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	<p>(事業名) 自然環境保全推進事業 【環境政策課】</p> <p>(事業目的) 長崎市の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、自然環境の保全及び創造と市民の普及・啓発を図る。</p> <p>(事業概要) 長崎市自然環境調査委員による希少動植物の調査やホタルの里づくり事業の推進並びにビオトープの保全に努めるとともに、人と自然とがふれあえる場の創出や自然体験学習の場を確保する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	ホタル飛翔定点確認箇所数	
		目標値	81 箇所	81 箇所
		実績値	78 箇所	79 箇所
		達成率	96.3 %	97.5 %
		決算(見込)額	1,955,244 円	1,977,081 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>自然環境保全のバロメーターのひとつとして、ホタルの飛翔状況は重要であることから成果指標とした。</p> <p>地域の主要な81箇所の定点において、ホタルの飛翔が確認できた箇所数を目標値とした。</p>	<p>自然環境保全のバロメーターのひとつとして、ホタルの飛翔状況は重要であることから成果指標とした。</p> <p>地域の主要な81箇所の定点において、ホタルの飛翔が確認できた箇所数を目標値とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 平成27年度から定点の82箇所ですホタル飛翔調査を実施してきたが、そのうち1箇所が、土砂埋め立て工事により調査不能となったため、81箇所に変更となった。</p> <p>また、相川休耕田及び黒崎永田湿地自然公園において、維持管理や観察会を行うとともに、自然環境調査委員による希少動植物の調査を実施した。</p> <p>(成果・課題等) 河川流域の住民の協力を得て、定点調査の目標は達成できた。</p> <p>市ホームページへの掲載や市役所本館玄関等での掲示により、市民へ速やかに情報提供をすることで、市民の関心も高くなったが、一方で観賞時のマナーアップが課題となっている。</p>	<p>(取組実績) 平成27年度から定点の82箇所ですホタル飛翔調査を実施してきたが、そのうち1箇所が、工事により調査不能となったため、81箇所に変更となった。</p> <p>また、相川休耕田及び黒崎永田湿地自然公園において、維持管理や観察会を行うとともに、自然環境調査委員による希少動植物の調査を実施した。</p> <p>(成果・課題等) 河川流域の住民の協力を得て、定点調査の目標は達成できた。</p> <p>市ホームページへの掲載や市役所本館玄関等での掲示により、市民への瞬時の情報提供をすることで、市民の関心も高くなったが、一方で観賞時のマナーアップが課題となっている。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
2	<p>(事業名) 間伐材活用促進費</p> <p>【農林振興課】</p> <p>(事業目的) 市有林の間伐材等の有効活用を図るとともに、地域資材のPR及び森林資源の有効活用を図る。</p> <p>(事業概要) 市有林の間伐材等を板材や角材等に製材し、資材の提供や木製品を製作し、市施設や自治会等公共的施設等へ提供及び貸出しを行う。 また、一般市民への販売も行う。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	間伐材の利用本数	
		目標値	1,000 本	1,000 本
		実績値	975 本	772 本
		達成率	97.5 %	77.2 %
		決算(見込)額	3,544,739 円	4,114,652 円
		成果指標及び目標値の説明	間伐材の年間使用本数を成果指標とした。 過去(H20、H21)の使用本数の平均値を目標とした。	
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) <公共施設等への提供> フラワーポット … 87基 バンコ椅子 … 74脚 ブックトラック ※ … 18台 楕円テーブル ※ … 8台 その他特注製作や資材として提供 ※公共建築物等木質化推進事業にて製作・提供 <販売> フラワーポット資材… 105基分 バンコ椅子 … 2脚 木材市場出荷 … 271.984m3 うち一般建築材 97.176m3 バイオマス材 174.808m3	(取組実績) <公共施設等への提供> フラワーポット … 33基 バンコ椅子 … 78脚 ブックトラック ※ … 16台 楕円テーブル ※ … 8台 その他特注製作や資材として提供 ※公共建築物等木質化推進事業にて製作・提供 <販売> フラワーポット資材… 60基分 バンコ椅子 … 1脚 フラワーポット … 11基 木材市場出荷 … 134.215m3 うち一般建築材 73.746m3 バイオマス材 345.388m3
			(成果・課題等) 「長崎市公共建築物等木材利用促進方針」により、市有林の間伐材等を活用し、公共建築物等の木造化、木質化など木材利用を積極的に取り組んだ。 公共施設や自治会等に木製品を提供することにより、地域産材のアピール及び森林資源の有効活用を図っていく。	(成果・課題等) 「長崎市公共建築物等木材利用促進方針」により、市有林の間伐材等を活用し、公共建築物等の木造化、木質化など木材利用を積極的に取り組んだ。 一般建築材等として曲がり等により、不向きな材が多く、バイオマス材としての出荷が多かった。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度	
3	(事業名) 【補助】山林整備事業費(公有林) 【農林振興課】 (事業目的) 市有林の森林資源の有効活用と公益的機能の充実を図るため整備を実施する。 (事業概要) 集約化実施計画及び特定間伐等促進計画、森林経営計画に基づき、間伐等の保育、道路網等の整備を実施する。 【市直営林面積】A=1,035.18ha	実施年度	継続		
		成果指標	年間整備面積		
		目標値	30.0 ha	30.0 ha	
		実績値	28.9 ha	16.3 ha	
		達成率	96.3 %	54.3 %	
		決算(見込)額	14,240,896 円	12,260,223 円	
		成果指標及び目標値の説明	長崎市有林の年度毎の森林整備(保育等)面積を成果指標とした。過去の森林整備面積の平均値を目標とした。		
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	利用間伐 … 7.48ha 下刈り … 19.63ha 防火広場手入れ … 0.54ha 防火線手入れ … 1.56ha 小計 28.94ha 森林作業道開設 … 1,364m	(取組実績) 利用間伐 … 6.80ha 下刈り … 7.41ha 防火広場手入れ … 0.54ha 防火線手入れ … 1.56ha 小計 16.31ha 森林作業道開設 … 937m
			(成果・課題等)	利用間伐について、予定箇所が急峻な地形で木の生育が悪く、利用できる木が少なかったため、事業実施面積が減少した。 今後も、利用間伐が主体となるため、搬出道の計画に併せた森林経営計画の策定を行い、計画的に森林整備を実施する必要がある。	(成果・課題等) 利用間伐について、予定箇所が急峻な地形で木の生育が悪く、利用できる木が少なかったため、事業実施面積が減少した。 今後も、利用間伐が主体となるため、搬出道の計画に併せた森林経営計画の策定を行い、計画的に森林整備を実施する必要がある。

令和2年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-2 自然とふれあう場と機会を創出します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図	
	市民が	自然とふれあうことで、安らぎや潤いを感じている。	
個別施策主管課名	環境政策課	所属長名	山田 尚登

令和元年度 of 取組概要

①自然とふれあう機会の創出

- ・小中学生とその保護者を対象に、環境保全への意識や行動を高めてもらうために親子環境教室を5回開催した。【D4-1へ再掲】【D5-1へ再掲】
- ・相川休耕田及び黒崎永田湿地自然公園において、幼稚園児～大学生及び小中学校教員等を対象とする学習会・研修会を通して希少動植物とのふれあいを図るとともに、里地・里山・里海等においても、市民環境活動団体や多くの市民が環境保全活動を通して自然とのふれあいを図った。
- ・小学校、自治会及び市民団体等からの依頼で自然環境に係る出前講座(ホタルの生態、川の生きもの観察会等)を4回実施し、計674名の参加があった。
- ・体験の森の森林体験館、休養宿泊施設、林間キャンプ場、運動広場等の施設において利用提供を行った。
- ・いこいの里において、土と自然に親しみながらレクリエーションができるよう、様々な体験プログラムを実施するとともに、市民・団体により新たな体験プログラムを実施した。また、民間企業が、CSR活動(企業の社会的責任を果たす活動の場)として、昨年に引き続き、シバザクラの植樹を行った。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
自然とのふれあい体験イベントへの参加者数	68,804人 (26年度)	↓ 目標値	71,100	72,250	73,400	74,550	75,700
		↑ 実績値	77,494	80,707	84,165	89,250	
		達成率	109.0%	111.7%	114.6%	119.7%	

※ 市内で開催される市民向けの自然とのふれあい体験イベントへの参加者数及び自然体験施設利用者数
(あぐりの丘: 64,544人 市民の森: 20,658人 ペンギン水族館: 2,353人 科学館: 81名 相川黒崎ビオトープ野外観察会: 156人 各公民館講座等: 1,441人 親子省エネ教室: 17)

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①自然とふれあう機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子環境教室の参加者(208人)は、里地・里山・里海、ビオトープ等における自然体験の中で、自然とふれあいながら自然環境保全の大切さを知ることができた。【D4-1へ再掲】 ・「森林体験学習(22回 2144人参加)の開催等、森林の大切さを伝える森林体験を提供し市民が利用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は専門家による説明を交えながら自然観察や生物の同定を実施することで身近な範囲にも多様な自然や生物があることや、それらを守っていくことの重要性の認識につながった。 ・体験の森の森林体験館等の施設を利用提供することで、市民の自然環境保全における森林及び林業の重要性の啓発や、自然愛護意識の高揚が図られた。

<p>・いこいの里において、市民の体験プログラムの実施により多くの来園者が土と自然に親しむことができた。また、CSR活動の場としての取組みも継続することができた。</p>	<p>・土と自然に親しみながら行うレクリエーション活動ができるよう様々な体験の場を提供することで、市民が自然や動植物を大切にすることを意識の啓発につながった。</p>
---	---

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①自然とふれあう機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民協働の輪が広がっているが、あぐりの学校(ワークショップ)への新規参加者が伸びていない。 ・体験の森は利用者が減少している。 ・親子環境教室の参加者については、自然に関心の高い常連の方が多く、新たに参加される方の獲得が進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動の成果やあぐりの学校(ワークショップ)の情報発信が十分ではない。 ・猛暑や遠足利用の減少の要因もあるが、開設から20年以上経過し、老朽化している施設がある。 ・教室の内容、周知方法が、これまであまり環境に興味関心を持っていなかった子どもでも参加したくなるような内容となっていない。

今後の取組方針

<p>①自然とふれあう機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子環境教室では、参加者の増加を図るため適切な開催時期の検討を行うとともに、引き続き、魅力ある多様なメニューを開拓し、自然環境に対する意識の高揚を図る。【D4-1へ再掲】【D5-1へ再掲】 ・体験の森については、今後も親子参加型の自然体験型学習会などのイベント実施や地域・団体等との協働による事業(里山清掃・森林清掃等)を継続的に展開し、自然とのふれあいの場の提供を図っていく。 ・いこいの里については、市民協働による体験プログラムを含めて様々な体験プログラムを実施し、来園者が更に土や自然にふれあうことができるよう努める。また、自然体験学習の場やCSR活動の場としても活用できるよう積極的にPRに努める。 ・いこいの里の市民協働の取組みについては、市民活動の成果を記録した活動パンフレットによる広報や、活動者が仲間を新規参加者として紹介する仕組みを取り入れ、活動の輪が広がるよう積極的な取組みに努める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成30年度	令和元年度
1	(事業名) 体験の森運営費 【水産農林政策課】 (事業目的) 指定管理者制度により、体験の森の管理運営を行う。 (事業概要) 1. 施設修繕 老朽化した施設等の修繕を行う。 2. 管理等委託 指定管理者制度により施設の管理運営を行う。	実施年度	継続	
		成果指標	利用者数	
		目標値	25,000 人	25,000 人
		実績値	21,516 人	20,658 人
		達成率	86.1 %	82.6 %
		決算(見込)額	20,324,784 円	19,794,406 円
		成果指標及び目標値の説明	自然環境保全意識の向上のためには森林体験学習など親子での自然観察会や自然体験型学習会などへの参加者が重要であるため、成果指標とした。 H17～H21の5カ年平均を目標値としている。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 平成30年度末現在、施設利用者数21,516人 親子参加型の自然体験型学習やウォーキングなどのイベントを実施。 (成果・課題等) 猛暑や遠足利用の減少により、利用者が減少したことから、前年度より利用者が減少し、目標値を下回った。	(取組実績) 令和元年度末現在、施設利用者数20,658人 親子参加型の自然体験型学習やウォーキングなどのイベントを実施。 (成果・課題等) 大雨や台風などの天候の不良により、利用者が減少したことから、前年度より利用者が減少し、目標値を下回った。		
2	(事業名) あぐりの丘運営費 (H24から「あぐりの丘体験費」を運営費に統合)(H26から「いこいの里施設整備事業費」を運営費に統合) 【農林振興課】 (事業目的) 1. いこいの里(あぐりの丘を含む)の施設の運営及び環境の維持管理 2. 市民及び来園者が、土と自然に親しみながら行うレクリエーション活動ができるよう様々な体験の場を提供する。 (事業概要) 1. 「施設の維持管理」の実施 施設・設備の維持管理、花・樹木管理、動物の飼育、園内清掃、施設・設備の修理 2. 「各種体験教室」の実施 料理体験、ふれあい動物体験、収穫体験、フリーマーケット、飯ごう炊さん、幼稚園収穫体験、切りばら体験、他各種体験の実施 3. 市民協働の活動の支援 ワークショップ、あぐりフェス及びあぐりの学校の開催・支援、広報・宣伝	実施年度	継続	
		成果指標	あぐりの丘体験プログラムの参加者数	
		目標値	66,219 人	66,832 人
		実績値	100,565 人	105,951 人
		達成率	151.9 %	158.5 %
		決算(見込)額	104,083,701 円	90,390,233 円
		成果指標及び目標値の説明	あぐりの丘における各種体験の提供に対して、参加者数が重要であることから、体験プログラム等の参加者数を成果指標とした。 基準値の61,314人(H22年度実績)から毎年1%の増加とした。なお、H25年度から市民協働による新たな運営の仕組みづくりの構築を開始し、市民主体による体験プログラムへの参加者数も加算することとした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 各種体験の継続と料理特別教室等で42種類の体験を実施した。また、市民協働の取組みで、44団体が65種類の体験を実施した。 (成果・課題等) 各種体験の継続及び市民協働による活動者の体験プログラム数が広がっており、昨年度と同様に実績値が目標値を大きく上回った。	(取組実績) 各種体験の継続と料理特別教室等で41種類の体験を実施した。また、市民協働の取組みで、48団体が61種類の体験を実施した。 (成果・課題等) 各種体験の継続及び市民協働による活動者の体験プログラム数は減少したものの、昨年度と同様に参加者数の実績値が目標値を大きく上回った。		